

⑫豪雨災害に備えたため池の「かいぼり」作業の実施

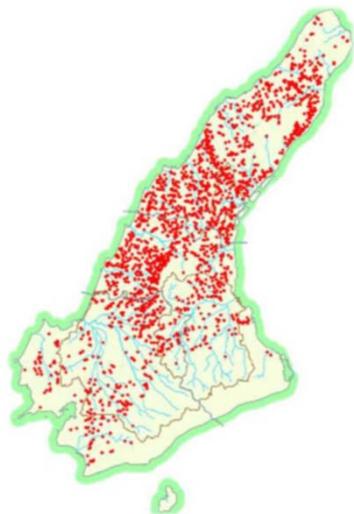
【兵庫県 淡路東浦ため池・里海交流保全協議会】

○ため池の適正な維持管理が出来ずに法面崩壊や漏水による決壊被害が懸念されるため池において、「かいぼり」を実施し、貯水量の確保、危険箇所の早期発見を図る。

○農業者、漁業者の他、地元の高校生も参加し、多様な連携が実現しつつある。

地域概要

- 日本一密度が高い淡路島のため池は、兵庫県の農業産出額の4分の1を占める淡路島の農業を支えている。
- 過疎化・高齢化等により、ため池の適正管理の実施が困難になっていたが、平成20年より農業者と漁業者が連携し、「淡路東浦ため池・里海交流保全協議会」を結成。



淡路島内のため池分布
(出典：兵庫県淡路県民局洲本土
改良事務所HP)

対策の内容・結果

【「かいぼり」による貯水量の確保】

- ため池の泥を下流へ流す「かいぼり」を実施し、堆積した腐葉土を放流することで貯水量の確保を図る。
- また、老朽化に伴う危険箇所の早期発見・対策につながる。
- その他、里海へ腐葉土を供給し、海の生態系保全に寄与。



作業の様子①

(出典：淡路東浦ため池・里海交流
保全協議会提供資料)

対策の背景

頻発する豪雨への対応

- 近年各地で頻発する豪雨にともない、適正に維持管理されていないため池の法面崩壊や漏水による決壊被害が懸念。
- 近年里海の栄養塩が減少し、海苔の色落ち等漁業における生産力の低下が懸念。



加太池
(淡路市久留麻)

- 農業者と漁業者の交流から、水が必要な時期を確認するなど相互理解が深まるとともに、地域を理解し防災意識の醸成につながっている。
- 「かいぼり」を10年間継続して実施。地区内における認知度が年々高まっており、ネットニュースにも取り上げられる。(平成29年の参加者は、約100名)。
- 参加者に他団体(生協等)や地元の高校生が新たに加わり、多様な連携が実現しつつある。



作業の様子②

(出典：淡路東浦ため池・里海交流
保全協議会提供資料)